令和８年１０月２９日
建設環境委員会　報告事項資料№１
都市計画課

国分寺市都市計画マスタープラン見直しの方向性について

現行の都市計画マスタープラン（2016(平成 28)年２月）の計画期間（概ね 20 年）の中間年にさしかかることから、令和９年度より改定に向けた検討着手を予定しています。検討にあたっての見直しの方向性及び今年度の取組についてご報告いたします。

1. 都市づくりの全体構想としてのグランドデザイン策定について

(1)計画の構成

背景１　現行計画策定から 10 年が経過し、社会情勢や都市構造が変化

- 2040(令和 22)年をピークとした人口減少・団塊ジュニア世代の高齢化を背景とした地域経済循環の重要化
- コロナ禍(2020－2023)を契機とした身近な生活圏の再評価
- 中間年までに取組む主要施策が概ね完了、国分寺駅北口再開発事業完了・市庁舎の移転など本市の都市構造が大きく変化

背景２　関連計画の見直し時期の重複・新たな計画を同時策定する必要性

- 緑の基本計画（2011－2030）・住宅マスタープラン（2017－2026）・都市交通マスタープラン（都市計画マスタープランに連動）
- 立地適正化計画（新規策定要）・再エネ促進計画（新規策定要）

背景３　策定作業を合理化できる可能性

- 各計画の改定または策定に際し類似作業（基礎調査等）が一定数ある

背景４　生活像等を勘案した将来ビジョンを明確化し、複雑化する都市課題を分野横断的に考える必要性

- 都市計画運用指針において、都市計画マスタープランに、「土地利用・各種施設の整備の目標等に加え、生活像・産業構造・都市交通・自然的環境等に関する現況及び動向を勘案した将来ビジョンを明確化」「各種の社会的課題への都市計画としての対応についての考え方を記述」する方向性が示される

2050 年を見据えた 2040 年を目標年次とした大幅改定

関連する６計画を１本化し計画を合理化

①都市計画マスタープラン
②緑の基本計画
③住宅マスタープラン
④都市交通マスタープラン
⑤立地適正化計画(新規)
⑥再エネ促進計画(新規)

将来ビジョンを起点に、実現に必要な施策へ落としこむ検討手順

将来ビジョン「ベッドタウンからリビングタウン(暮らすまち※)へ」を起点に、理想とする暮らすまち像（将来生活像とその舞台となる都市空間のイメージ）を明確化し、実現に必要な施策へ落とし込み

都市計画マスタープランから グランドデザインへ

※ 暮らす人が、まちを使い楽しむことで、活力が生まれ経済が循環する地域社会

これまでの策定手順と計画構成イメージ

分野別課題から施策へ落とし込み

課題解決型

- 土地利用の課題
- 道路・交通の課題
- 緑・景観の課題
- 安全・安心の課題

まちづくりの理念・目標

- 土地利用まちづくり方針
- 道路・交通まちづくり方針
- 緑・景観まちづくり方針
- 安全・安心まちづくり方針

各計画を個別に作成

都市計画マスタープラン

整合連携

関連計画
- 緑の基本計画
- 住宅マスタープラン
- 建築物再生可能エネルギー利用促進計画

補完

- 立地適正化計画
- 都市交通マスタープラン

グランドデザインの策定手順と計画構成イメージ

将来ビジョン「ベッドタウンからリビングタウン(暮らすまち)へ」を起点に、理想とする暮らすまち像を明確化

未来創造型

どんな(暮らすまち)にしたいか？
ベッドタウンからリビングタウン(暮らすまち)へ

暮らしのシーン（生活・活動）
- 繋がる
- 学ぶ
- 楽しむ
- 備える
- 移動する
- 生産・消費
- 働く
- 整える
- 住む
- 食べる

×

都市を構成する要素
- 建物
- 公園・緑地
- 河川・用水
- 道路・鉄道
- 歴史・成立ち
- 地形

地域幸福

横断的視点(ライフステージ/昼と夜・平日と休日/インクルーシブ/地域経済循環)

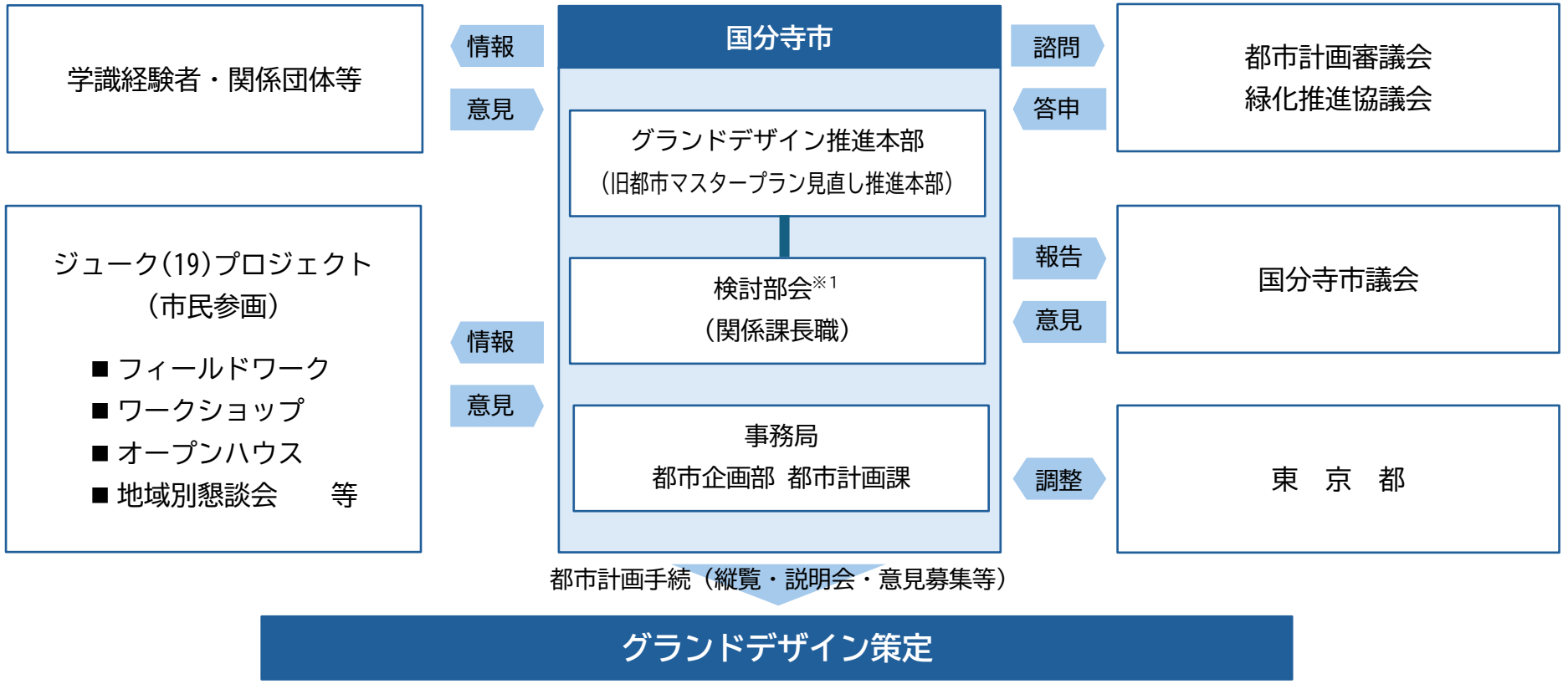
ビジョン実現のために必要な複合施策を体系整理

グランドデザイン

【ビジョン編】 理想とする「暮らすまち」像

【分野別方針編】
- 都市計画マスタープラン
- 緑の基本計画
- 住宅マスタープラン
- 都市交通マスタープラン
- 立地適正化計画
- 建築物再生可能エネルギー利用促進計画

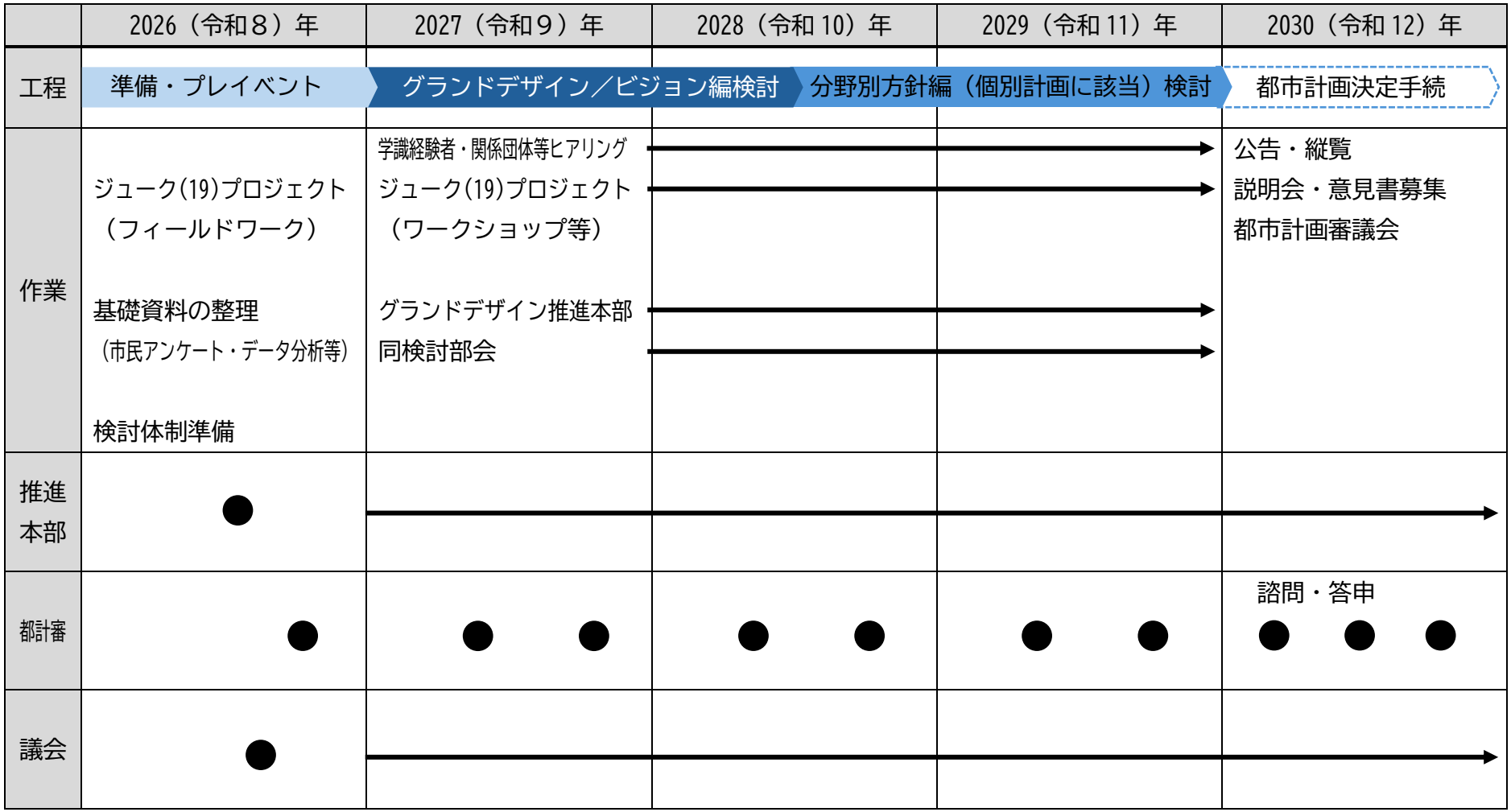
(2)検討体制



※1 検討部会：都市計画課、ゼロカーボン課、都市づくり課（西国分寺駅周辺等含む）、駅周辺整備課、建築指導課、道路建設課、公園緑地課、交通課、市長政策室、公共施設マネジメント室、防災安全課により構成。その他議題に応じオブザーバー参加を依頼する。

※　アーバンデザインセンター国分寺は、ジューク(19)プロジェクト（市民参画）の企画運営、情報発信、計画取りまとめ等の支援を行う。

(3)スケジュール


2026（令和８）年
2027（令和９）年
2028（令和 10）年
2029（令和 11）年
2030（令和 12）年
工程
準備・プレイベント
グランドデザイン／ビジョン編検討
分野別方針編（個別計画に該当）検討
都市計画決定手続
作業
ジューク(19)プロジェクト
（フィールドワーク）
基礎資料の整理
（市民アンケート・データ分析等）
検討体制準備
学識経験者・関係団体等ヒアリング
ジューク(19)プロジェクト
（ワークショップ等）
グランドデザイン推進本部
同検討部会
公告・縦覧
説明会・意見書募集
都市計画審議会
推進本部
都計審
諮問・答申
議会

2. グランドデザイン検討に向けた令和8年度の取組について

グランドデザイン検討に向け、令和８年度は、基礎資料の整理（市民アンケート調査及びデータ分析）及び市民参画イベント（フィールドワーク）を行います。このうち、市民アンケート調査及び市民参画イベントの実施についてご報告します。

(1)市民アンケート調査

1)実施概要

近年のまちづくり検討プロセスにおいては、都市空間の物理的課題からではなく、そこに暮らす人々の暮らしやすさや幸福度（Well-Being）を起点に、その舞台装置となる都市や地域をデザインする考え方にシフトしてきています。

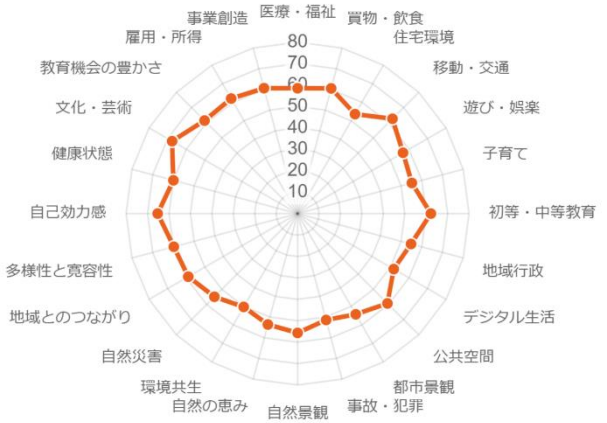
本市におけるグランドデザインの検討においても、この考え方を踏まえ、デジタル庁の「地域幸福度（Well-Being）指標調査」を活用した市民アンケート調査を実施します。

デジタル庁が毎年実施する全国調査と同一の設問を用いるため、デジタル庁のダッシュボードに蓄積された全国自治体のデータと比較分析を行うことができるほか、経年変化を追跡し、まちづくりの施策の効果を検証することができます。

デジタル庁で実施した過去調査は、サンプル数が100前後と少ないことから、今回は市がサンプル数を増やして実施することで、地区別集計等を行い、まちづくり検討へ活かしてまいります。

項目	内容
実施時期	令和８年 11 月 13 日（金）～30 日（月）（予定）
調査対象	住民登録のある満 18 歳以上の市民 3,000 人
実施方法	郵送配布 / 紙面回答又は WEB 回答併用
設問内容	デジタル庁（国）作成の地域幸福度に関する標準設問（50 問）

（参考）デジタル庁のダッシュボード



【出典】2025年度版(令和7年度版) Well-Being 全国調査

「https://well-being.digital.go.jp/dashboard/」より国分寺市データで作成
(回答者数 110)

2）調査項目

以下の50の項目について、10段階ないし5段階評価で回答するものです。

地域における幸福度・生活満足度（4）

- ①現在、あなたはどの程度幸せですか。
- ②現在、あなたの住んでいる地域の暮らしにどの程度満足していますか。
- ③あなたの町内の人々は、大体において、どれくらい幸せだと思いますか。
- ④自分だけでなく、身近なまわりの人も楽しい気持ちでいると思う。

生活環境（16）

1. 医療・福祉（2）
- ⑤医療機関が充実している
- ⑥介護・福祉施設のサービスが受けやすい

2. 買物・飲食（2）
- ⑦日常の買い物にまったく不便がない
- ⑧飲食を楽しめる場所が充実している

3. 住宅環境（3）
- ⑨自宅には、心地のいい居場所がある
- ⑩自宅の近辺では、騒音に悩まされている
- ⑪適度な費用で住居を確保できる

4. 移動・交通（1）
- ⑫公共交通機関で、好きな時に好きなところへ移動ができる

5. 遊び・娯楽（1）
- ⑬楽しい時間を過ごせる娯楽施設がある

6. 子育て（2）
- ⑭子育て支援・補助が手厚い
- ⑮子どもたちがいきいきと暮らせる

7. 初等・中等教育（2）
- ⑯教育環境（小中高校）が整っている
- ⑰通学しやすい場所に学校がある

8. 地域行政（2）
- ⑱行政は地域のことを真剣に考えていると思う
- ⑲公共施設は使い勝手がよく便利である

9. デジタル生活（2）
- ⑳行政サービスのデジタル化が進んでいる
- ㉑仕事や日常生活の場でデジタルサービスを利用しやすい

10. 公共空間（2）
- ㉒地域の雰囲気は、自分にとって心地よい
- ㉓まちなか、公園、川沿い等で、心地よく歩ける場所がある

11. 都市景観（1）
- ㉔自慢できる都市景観がある

12. 自然景観（1）
- ㉕自慢できる自然景観がある

13. 自然の恵み（2）
- ㉖身近に自然を感じることができる
- ㉗暮らしている地域の空気や水は澄んでいてきれいだと感じる

14. 環境共生（1）
- ㉘リサイクルや再生可能エネルギー活用等、環境への取組みが盛んである

15. 自然災害（1）
- ㉙暮らしている地域では、防災対策がしっかりしている

16. 事故・犯罪（2）
- ㉚地域では、防犯対策（交番・街灯・防犯カメラ・住民の見守り等）が整っており、治安がよい
- ㉛歩道や信号が整備されていて安心である

地域の人間関係（2）

17. 地域とのつながり（5）
- ㉜同じ町内に住む人たちを信頼している
- ㉝地域活動（自治会・地域行事・防災活動等）への市民参加が盛んである
- ㉞地域に困ったときに相談できる人が身近にいる
- ㉟町内の人が困っていたら手助けをする
- ㊱この町内に対して愛着を持っている

18. 多様性と寛容性（5）
- ㊲町内には、どんな人の意見でも受け入れる雰囲気がある
- ㊳見知らぬ他者であっても信頼する
- ㊴町内の人が自分をどう思っているかが気になる
- ㊵女性が活躍しやすい雰囲気がある
- ㊶若者が活躍しやすい雰囲気がある

自分らしい生き方（6）

19. 自己効力感（1）
- ㊷自分のことを好ましく感じる

20. 健康状態（2）
- ㊸身体的に健康な状態である
- ㊹精神的に健康な状態である

21. 文化・芸術（2）
- ㊺地域は、文化・芸術・芸能が盛んで誇らしい
- ㊻将来生まれてくる世代のために、良い環境や文化を残したい

22. 教育機会の豊かさ（1）
- ㊼学びたいことを学べる機会がある

23. 雇用・所得（2）
- ㊽やりたい仕事を見つけやすい
- ㊾適切な収入を得るための機会がある

24. 事業創造（1）
- ㊿新たな事に挑戦・成長するための機会がある

（出典）デジタル庁「地域幸福度（Well-Being）指標利活用ガイドブック」（2026年3月）を基に作成

(2)市民参画イベント「国分寺ジューク(19)プロジェクト」

来年度グランドデザインの検討に向けたプレイベントとして、国分寺の 19 町を歩き、住区※の地域幸福度を探るフィールドワークを開催しました。

当日は、参加者が 10 グループに分かれ、担当する町を歩きながら「楽しい」「好き」「寛ぐ」等、幸福を感じる場所・活動・風景等をリサーチし、写真を地図に貼りながら成果を共有しました。

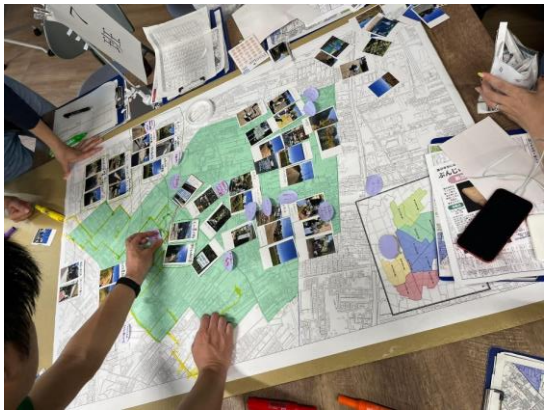
※住民が徒歩や自転車で日常生活を送ることができる範囲。日常生活圏。







項　目	内　容		
日　　時	令和８年 10 月 10 日（土）午前９時～午後４時		
集合場所	市役所	参加者数	29 人
参加者の声	・ 次の都市計画マスタープランの作成に向け、住民の地域に対する関心や愛着を検討の起点とするプロセスは、納得度も高く素晴らしいと思いました。 ・ ゆっくり街を歩くことで、普段気付けない地域の魅力、国分寺が他の地域と違うポテンシャルを持っていることに、あらためて気付く貴重な体験でした。 ・ 市のイベントということで、もう答えがある程度あって誘導されたり、お客様扱いされてしまうのではないかと気構えていたが、そういう感じがなく、対等な参加者という感じがして参加して楽しかった。		





フィールドワークの成果については、今後、公共施設での巡回展示を実施し、意見の追加収集を行い、来年度の検討の基礎資料とします。